

(様式2)

学校関係者評価報告書

愛媛県立三崎高等学校

学校番号 (37)

評価実施日		令和 5年 2月 28日 (火)	
委員	氏名	所属等	備考
	土居 由美	学校評議員 元伊方町教育委員	
	山口 喜久雄	学校評議員 三崎区長	
	村上 勸	三崎駐在所長	
	野村 雅英	三崎中学校校長	
	野井 純	三崎小学校校長	
	氏間 貴則	三崎高等学校PTA会長	

評価・提言等	提言等に対する改善方策等
<p>1 重点目標等について</p> <p>(1) 学校行事について</p> <p>文化祭ではバザーや生徒の歌声を聞き、三崎の伝統が守られていると感じ、安心しました。スピーチコンテストでも生徒の思いを知り「三崎高校に入学して良かった」と思ってもらえていることを嬉しく思いました。</p> <p>(2) 地域との協働について</p> <p>「地域が望んでいるか」「周知されているか」「誰がするか」「本人が楽しいか」「それを伝えようとしているか」などが、課題だと思う。活動経験を、通して学生が人への思いやり、気付き、仕組み作りなどを、勉学に生かしていける事を、期待したい。</p> <p>『地域に開かれた学校づくり』の視点から、コロナ禍でも貴校の取組は大いに評価できると思う。今後は、教職員、生徒共にこれが重荷になることなく、地域(伊方町)の魅力や貴校の取組を様々な機会を捉え、『三崎高校ここにあり』をオンラインを活用して交流・発信に努め、全国を視野に入れた取り組みを目指してはいかかと思う。</p> <p>今年度の活動に力を入れられていたことがよく分かった。一方、伊方町全体(特に旧伊方地域)の方々に三崎高校の活動を、さらに知っていただき、身近な学校であると実感できる地域協働活動をお願いしたい。</p> <p>未咲輝学という、他校にはあまり見られない大変素晴らしい教育プログラムがあり、そこに魅力を感じている。高校生の時点において、社会や政治・経済の成り立ちをよく理解し、自分自身の特性や欠点をよく把握し、早くになりたい職業に向かって進学や就職活動を進めていくことは、未来の日本を担う高校生の人生を左右する大変重要な事である。正に、未咲輝学は、その気付きとなる取組ではないかを感じる。今後は、コロナ禍でできなかった課外学習や県外等の社会・技術・取組学習、職業体験などが可能になっていくと思う。生徒一人一人の大切な未来を早い段階で切り開いていくことができれば、生徒にとって大変意義のある充実した高校生活になる。ぜひ、この未咲輝学という素晴らしい取組が生徒の『実態把握能力』と『問題解決能力』の向上、未来選択の参</p> <p>(3) 努力目標等について</p> <p>学校の努力目標を全職員が常に意識して、学校マニフェストを達成することだと思う。</p> <p>定員いっぱいの入学生が来てくれたことがこれまでの取組みへの評価の証だと思う。生徒の活動が地域によく伝わり、三崎高校生の存在感が増してきていると感じる。プーメン人材が増えることを期待している。</p>	<p>・コロナ禍において学校行事を行っていくことに難しさを感じるが、感染対策を徹底した上で生徒・保護者にとってやりがいや満足でき、地域の方々にも納得して御協力いただける取組を図っていく。</p> <p>・本校は伊方町唯一の高校として伊方町に対してどのように貢献できているか考える必要がある。地域と協力して今の本校があり、様々な連携をしてきた。しかし、その活動が周知されていないことは大いにある。現在も本校ホームページにおけるみさこう日誌やFacebookやインスタグラムなどではアカウントを作成し、その取組を公開しているが、十分に発信で来ているとは言い難い。</p> <p>・今後、本校の取組をどのように発信していくか。オンラインでの取組紹介やプレスリリースなども含めてその方法について検討していき、三崎高校が地域にとって身近に感じられる学校であることを表現していきたい。</p> <p>・本校において、総合探究の時間は重要な位置付けにあると認識しており、新事業「新時代に対応した高等学校推進改革事業」に指定されたことにも大きな意義を感じている。その中で未咲輝学の時間を評価していただくことは大変光栄なことである。令和6年度からの新しい普通科においてその特徴を前面に出すとともに成果としても生徒・保護者、また、地域の方々が納得できる取組となるよう、教職員全員で取り組んでいきたい。より良いものとなるよう今後とも御助言いただきたい。</p> <p>・今後、スクールポリシーやスクールミッションを全職員が意識して取り組むことができるよう意識啓発に努めたい。</p>

2 自己評価結果及び学校運営の改善方針について

(1) 人権学習の充実

年4回の発行であった。生徒に身近な話題を提供し、人権について考えを深めさせることができた。挨拶運動は毎月行うことができた。
予定に合わせて発行できるよう改善してほしい。

(2) 図書活動の充実

貸出数150人以上を達成することができたが、200人以上を達成することができなかった。
さらに、利用者が増えるように改善を求める。

(3) 学習評価

教育成果があり、達成状況を把握して改善策も良くできていると思います。ハワイの人とオンライン学習するなど、国際交流の素晴らしい取組だと思えます。

3 その他

地元の高校生が減り、寄宿舎やバス通学の生徒が多くなり、保護者への対応など、教職員の負担は益々増えてきていると思います。コロナ感染対策をしながらも行事や地域への参加では良く頑張っていると感じます。情報発信を十分行いながら、細やかな生徒指導もしっかり行ってほしいと思います。先生方の負担が片寄らないよう、全職員が同じ方向を向いて進んでほしいと思います。

創意工夫で三崎高校を盛り上げてくれている学校教職員の方々には地域の一人として、とても感謝しています。寄宿舎生が増え、先生方の負担が増えてきてもっと職員の数を増やしてもらえないかと思えます。地元の生徒が少なく残念ですが、来年度も同じような素晴らしい取組が続けられますよう、期待しています。

今年度の活動に力を入れられていたことがよく分かった。一方、伊方町全体（特に旧伊方地域）の方々に三崎高校の活動を、さらに知っていただき、身近な学校であると実感できる地域協働活動をお願いしたい。

・来年度は、生徒主体の人権だよりを発行し、挨拶運動も継続させていきたい。

・図書委員会で図書館の利用についてさらに啓発活動をしていくことで、多くの生徒に利用してもらえるようにしたい。

・国際交流においても協力をいただける方が多いことも本校の魅力向上の要素である。このような絆を大切にして、生徒の成長につながるよう図る。

・全教職員が同じ意識を持って取り組みことができるよう職員会議や校内研修等を通して意識統一に努めます。教職員の働き方改革の観点からも専門家の多い地域の方々の御協力が必要であり、今後も地域との連携を密にとっていきたい。

・地域の方々から御意見いただき、大変うれしく感じている。今後、伊方町内に留まるところか県外出身の生徒が増えていくことも考えられるが、地元の方々の温かい御支援のおかげで本校の生徒が心からの成長していることを感じる。今後とも期待に応える努力をしていきたい。